

方剂名	効能	生薬組成	
			書籍
癰瘍剤 内癰剤 3			
だいおうぼたんびとう 大黃 牡丹皮湯	瀉熱破瘀・散結消腫	大黃 18g・牡丹皮 9g・桃仁 12g・冬瓜仁 30g・芒硝 9g 水煎し服用する。	
金匱要略	<主治> 腸癰初起 右下腹部の疼痛、圧痛、抵抗があり、甚だしいと右下肢を屈曲し、発熱、汗が出る、舌苔が薄黄、脈がやや数などを呈す。 <病機> 熱毒が腸に蘊結して気血を瘀滞させ癰を形成した初期である。虫垂炎などに相当する。 熱毒気血が瘀滞して脈絡が通じないので右下腹が痛み、有形の瘀積があるために圧痛、抵抗があり、疼痛を緩解させようとして右下肢を屈曲する。熱毒が蘊結して外犯すると発熱が生じ、津液を外迫すると汗が出る。舌苔が薄黄、脈がやや数は、熱毒蘊結の初期であることを示している。 <方意> 瘀熱を瀉し癰腫を消散させる（化膿していない初期に瀉下して瘀血を攻逐する）。 主薬は苦寒の大黃で、腸中の熱毒を瀉下すると共に活血化瘀に働き、軟堅散結の芒硝が補助する。清熱涼血の牡丹皮と破血の桃仁は瘀滞を散じ、清熱、排膿散癰の冬瓜仁は垢濁を除く。全体で苦寒瀉下、清熱涼血、活血化瘀の効能が得られ、熱毒瘀滞を除き癰腫を消散させる。 <参考> 本方（大黃牡丹皮湯）は、化膿していない初期に瀉下して瘀血を攻逐する。また本方には排膿消腫の効能もあるので、化膿の初期にも用いてもよい。 日本での保険適応効能、効果 比較的体力があり、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの次の諸症；月経不順、月経困難、便秘、痔疾		
ちょうようとう 腸癰湯	清熱涼血・排膿消癰	牡丹皮 9g・桃仁 6g・冬瓜仁・薏苡仁各 15g <大黃牡丹皮湯—（大黃・芒硝）＋薏苡仁>に相当する。 水煎し服用する。	
備急千金要方	主治は、腸癰成膿。 軽度の発熱、腹痛、圧痛、抵抗があり便秘を伴わないもの。舌質は紅、舌苔は黄、脈は数を呈するもので、腸管の炎症、化膿とこれに付随する局所の循環障害による病態に適應する。 糞便の停滞が無いので大黃牡丹皮湯より大黃・芒硝を除いて、排膿、消癰の薏苡仁を加えたものに相当する。 清熱涼血、散血の牡丹皮、散瘀の桃仁、清熱、排膿消癰の冬瓜仁・薏苡仁を配合し、内癰を消散する。 日本での保険適応効能、効果 盲腸部に急性または慢性的の痛みのあるもの、あるいは月経痛のあるもの。		